

私も思っている一方で、あと、もう一つケア会議をすることで、関係機関の方々、地域の方々が集まって一堂に会することで、つながりを強化する、連携、連動していく、その体制を強化していくという点でも非常に重要なことですので、今後も会議等を通じてしっかり市民の方々の、特に地区の住民の方々の声を拾い上げていただけたらと思っています。

あとは、訪問介護に代わる担い手としてってことで、シルバー人材センターさんが訪問型Bっていうことで、中地区で取組を始めるっていうことですので、今後もやはり一番の課題は、なかなか地区の中でそういった支援をする、担い手を掘り起こすってことが難しいのかなと思っています。

その中でも、特に介護予防の自主グループが、対馬島内で五十四、五か所あるということで、そのグループを中心にまた地域の担い手を掘り起こしていただけたらと思いますし、そこは私も様々なところで後押しができたかなと思っています。

時間は早いですが、以上で私の一般質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、針谷広己君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開を1時55分からとします。

午後1時40分休憩

午後1時55分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 皆様、こんにちは。会派未来改革の糸瀬雅之でございます。一般質問3日目、本日、私の質問で最後でございます。市長も大変お疲れでございましょうが、50分間よろしく願いをいたします。

まず、初めに、糸瀬教育長に、前中島教育長の後任として教育長という大役を引き受けていただきましたことに、改めまして、おめでとうございますという言葉より、むしろありがとうございますというお礼を申し上げたいと思います。今、対馬市は教育行政、多くの課題が山積しておりますが、今を生きる島内全ての子供たちのために一つ一つの課題に対して糸瀬教育長のこれまでの実績豊富な経験を生かしていただき、限られた財源の中で優先順位を考え取り組んでいただきたいと思っています。しかしながら、やはり体が資本でございますので、健康管理には十分注意していただき、職員そして我々市議会議員とともに頑張っていきたいと思っています。

私ごとで恐縮でございますけれども、私、2か月前、10月3日、私の長男に初孫が、私、子供が生まれまして、男の子でございました。私も晴れておじいちゃんと、市長、なりました。自

分自身もこれから飲み過ぎそして食べ過ぎに十分注意して健康管理を考えて、孫のためにも長生きをしなければならないと感じております。

それでは、通告をしておりました一般質問に入りたいと思います。

まず、対馬市の危機管理体制についてでございます。

現在、沖縄県先島諸島付近では中国による侵略行為を想定した危機管理体制が強化され、台湾有事の際に備えた南西諸島島民の九州本土への避難先の受入体制計画が策定されております。対馬市近海においても、北朝鮮による弾道ミサイル発射など安全保障上の問題も危惧されており、今後予想される対馬島内における激甚災害や有事の際における対馬市民の島外への受入れ自治体避難先や輸送手段、収容施設、ホテル等の計画を国や県と協議をし検討すべきと思うが、市長の答弁をお願いします。

次に、対馬市所有財産の今後の計画についてでございます。

1 番目、今年度から旧浅海中学校を陸上自衛隊の訓練施設への売却計画を進めており、これまでに数回にわたり住民説明会を実施いたしましたが、地元住民の十分な理解が得られず、本年度中の売却は難しいとの判断をされてるようであります。地元住民からは、最終的には市長の決断であるとの意見が出ておりますが、今後の売却に向けての市長の考えを答弁をお願いします。

2 番目、対馬市内の老朽化した廃校舎、体育館、廃園、保育所、教職員住宅等の対馬市所有財産の今後の解体処分を計画している建物のみについてで、優先順位とその解体費の財源をどのように確保するのか、市長の答弁をお願いします。

以上、2 項目 3 点について、よろしくをお願いします。

なお、一問一答の発言残り時間をできましたら 3 5 分間をめどに答弁をお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

3 5 分間議論ができるようにということでありましたら、1 0 分ぐらいで答弁をということですが、ある程度の詳しい説明もしないと意味が通らなくなりますので、そのところについては御容赦願います。

初めに、対馬市の危機管理体制についてでございます。

本市は、国境の島であり、北朝鮮による弾道ミサイル発射事案をはじめ、安全保障上の観点から危機管理体制の確立は重要な責務であると認識しております。また、武力攻撃事態等への対処においては、市の役割に加え、国、県及び自衛隊、警察、海上保安部といった専門機関との緊密な連携が必要であります。

こうした状況を踏まえ、本市では武力攻撃事態等における市民の生命、身体及び財産を保護する責務に基づき、国及び県の国民保護に関する計画を踏まえ、対馬市国民保護計画——令和 6 年

4月改定でございます——を定め、有事や大規模災害に備えた体制の整備に取り組んでいるところでございます。

本市の国民保護計画においては、地理的な特性から武力攻撃事態等を想定した場合、対馬島から本土への避難に関する要領を定めております。その中で、可能な限り全住民の避難を視野に入れた体制の整備に、県及び指定地方公共機関、オリエンタルエアブリッジや九州郵船などがございますが、ここと連携、協力しながら努めることとしております。

本市から島外へ避難する場合、本土までの船舶、航空機の手配及び確保は、長崎県国民保護計画に基づき県が担うこととされております。また、県は、県の区域を超えて住民を避難させる必要がある場合、あらかじめ避難先地域を管轄する都道府県知事と避難住民数や受入予定地域、避難方法等について協議を行うこととしております。

本市も、県との緊密な連携を通じて、本土側の受入体制や避難経路について情報共有を図り、円滑な広域避難が実現できるよう調整を行うこととしております。

なお、県は、九州、山口9県との間で武力攻撃災害等時相互応援協定を締結しており、広域的な応援体制の強化に努められております。

輸送手段の確保については、国、県から避難の指示があった場合、市は島内の港湾、空港までの交通手段を確保する責務があります。島外への輸送確保は、市は、県が保有する車両及び船舶の利用、九州郵船などの運送事業者に対して運送を求め、また国に対しても保有する航空機及び船舶による運送の要請を行うよう知事に求めます。

また、市では、避難すべき住民の数や現在確保が見込める輸送手段、今後不足する輸送手段の見込みといった情報を県に連絡し、全島避難を前提とした国、県との緊密な連携を図ることとしております。

そのほか、有事の際においては、迅速な避難と安全確保を図るため、自衛隊、警察、海上保安部といった関係機関との連携体制を構築してまいります。

自衛隊との連携では、市は、避難住民の誘導、食品の支援、医療の提供、捜索及び救出等に加え、武力攻撃災害への対処等といった国民保護措置を円滑に実施するため、特に必要があると認めるときには、知事に対し自衛隊の部隊等の派遣を要請することとしております。

本市は、有事や激甚災害時における島外避難体制について、既に国民保護計画の中でその役割と手順を整備しておりますが、今後とも、この計画の制度を高めるため、国、県と緊密に協議を重ね、特に避難先の確保、輸送力の向上及び避難住民の救援に資する宿泊施設等を含む収容施設の提供体制について、さらに強化を進めてまいります。

また、この計画は、訓練の検証結果等を踏まえて不断の見直しを行うこととしており、令和9年度、令和10年度には、対馬市で長崎県国民保護共同実動訓練を実施する予定であります。

この訓練を単なる形式的なものとするのではなく、島外避難、情報伝達、物資輸送といった喫緊の課題に対し、実効性を徹底的に検証する場とするとともに、引き続き市民の皆様の生命、身体及び財産を保護するため、万全の危機管理体制を構築してまいります。

次に、対馬市所有財産の今後の計画についてでございますが、まず、1点目の旧浅海中学校施設の売却につきましては、本定例会冒頭の挨拶でも触れさせていただきましたので、内容が重複する部分もございますが、御了承いただきたいと思います。

本年4月に、九州防衛局様から正式な購入の申入れがあり、これまでに地区住民説明会や地区の評議会及び戸主会議におきまして、自衛隊訓練場の必要性や地区からの質疑等について御説明をさせていただき、施設売却への御理解、御協力を求めてまいりました。

そのような中、本年7月に施設売却に対する反対署名が提出され、市といたしましても、地域住民の御意見として重く受け止めていたところでございます。

先月、11月初めには、第2回目の地区住民説明会を開催させていただきました。市といたしましては、国境としての防衛力の強化及び災害時の救援活動の拠点を確保するためにも、訓練場の確保は重要であることを改めて御説明させていただきました。

しかしながら、御理解をいただくには期間が短く、また計画を進める上で地域住民の御理解、御協力なくしては話を先に進めることはできないことから、国の令和7年度予算での施設売却は難しい状況であることを九州防衛局様へお伝えしたところでございます。

今後につきましても、従来どおり施設を借用しての訓練を実施していきながら、引き続き陸上自衛隊と協力し、対馬の上島での訓練場の必要性について、改めて地域住民の皆様の御理解、御協力をいただけるよう地域との協議を継続してまいります。

最後に、解体処分を計画している建物のみについて、その優先順位と解体費の財源をどのように確保するのかとの質問でございます。

本市では、昭和45年以降に整備された多くの公共施設やインフラ施設が、現在整備から30年以上が経過し、近い将来に改修、更新時期を迎え、修繕、更新等に多額の費用が必要になることが見込まれております。これは、本市が直面する財政課題の一つでございます。この課題に対し、公共施設等の在り方を見直し、計画的な維持管理に努めるため、対馬市公共施設等総合管理計画を策定し、その方針を実現することを目的として、対馬市公共施設等個別施設計画第2期を令和5年3月に策定しております。

この個別施設計画第2期において、個別の施設ごとにその具体的な方向性、施設の更新、長寿命化、集約化、複合化、転用、そして除却などが定められております。

解体処分の優先順位につきましては、個別施設計画を踏まえ、毎年10月中旬に決定します対馬市振興実施計画において、本市における来年度以降3か年度の事業について担当課より事業予

定の提案がなされます。この事業提案に施設の解体も計画されておりますが、どの事業を優先的に実施するかについては、担当課へのヒアリングを経て、最終的に私自身と両副市長を交えた協議の下、施設の老朽度、安全性など総合的に判断を行い、決定をしております。

解体処分に係る費用につきましては、本市の厳しい財政状況の中で、公共施設の維持管理、更新に加え、新たな事業にも予算措置が必要なことから、限りある予算の範囲内で対応せざるを得ず、優先的に予算を割くことが困難な状況でございます。解体費は、通常の施設修繕費等とは異なり単年度でまとまった費用が必要となるため、一般財源だけでの確保は厳しい状況でございます。

しかしながら、安全性を最優先とし、国の地方財政措置の活用、例といたしまして起債であります公共施設等適正管理推進事業債でございます。これらを一般財源の歳出抑制などによる財源確保に努め、優先順位の高い施設から解体処分を推進してまいりたい方向でございます。

以上であります。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 市長、ありがとうございます。5分オーバーしましたけど、その間、私も短縮で質問していきたいと思っております。

まず、対馬市の危機管理体制についてでございますけど、対馬市は今2万6,500人ぐらいですか、人口。その中で、市長は生命と財産を守る一番立場の司令塔でございます。今、世界情勢、中国と台湾の領土問題、いわゆる台湾有事の問題が報道されております。今、国民保護法で沖縄の5市町村11万2,000人が九州本土、山口県に島外避難計画をされております。

今、市長のほうから対馬市もマニュアルはできてるんだと、もうできてるんだということをおっしゃいましたよね。それは、我々がちょっと知らされてないかもしれませんし、これは、やはり今まだ仮のマニュアルじゃないかなと私は思います。

その中で、今、市長は旧浅海中学校を例えますと、売却に際して災害などの、昨年、有事の際の自衛隊の拠点にもなり得るということで売却をするんだということをおっしゃっていました。その際、市長がやはり考える有事、有事とはどのようなことを今想定をされてるのか、それを。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 有事となれば、どこの国とはなかなか言えませんが、確かにここ対馬を侵略する国が、こちらに攻めかけてきたということで私は考えております。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 議長、一応注意しとってください。一般質問中、脇本議員、私語が多過ぎます。

○議長（春田 新一君） 脇本議員、静かに。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 今、市長が言われたように、私もそのように、最悪の事態をやはり考えないと、今本当に安心というまちはどこにも、今最悪の事態を考えているということは必要かと思えます。

その中で、今、市長は国や県にいろいろと要望活動に行かれていますと思いますが、その際、やはり国と県とかその辺にこのような話ってというのは出てますでしょうか。対馬の有事についての話とか、要望活動の際には、どうでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 正直申しまして、要望活動時にはなかなかそのような、こういった安全保障上のことまでは話はすることはございません。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） やはり、今、北朝鮮の弾道ミサイル、今いろいろと年に数回、北朝鮮による弾道ミサイルが、もし対馬に来た場合ということをやはり最悪想定をして、我々も訓練等実施をしとかなければいけないかなと思っております。もし、この弾道ミサイルが、仮に、万関橋に弾道ミサイルが落ちた場合、対馬病院にもしこれが搬送する場合、北部の上島、その際はどのような輸送経路とか考えてありますでしょうか。これ、消防長がいいですか。

○議長（春田 新一君） 消防長、井浩君。

○消防長（井 浩君） 糸瀬議員の質問にお答えします。

万関橋が崩壊したらということですが、まず考えられるのは、昼間だったら豊玉の渡海船があります。そこから対馬病院に直で港がありますので。夜だったら、もう民間の船をお借りしたりして運ぶしか、今のところ方法はないと考えられます。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 渡海船で対馬病院に、これは人数に限られますよね。多くもし発生した、患者数が増えた場合、やはりそういった想定マニュアルはつくられてるかもしれませんが、今、今後真剣にこの辺の、いろんな機関と協議してつくる必要があると思います。早急ですね。

今、市長、対馬には陸海空自衛隊、3自衛隊ございますけども、その辺の人数とかは把握はされてますでしょうか。対馬を守る人数、把握されてますか。お願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） はっきりとした人数というのは、これ防衛上の秘密といったことで、陸海空の自衛隊のほうも申されませんが、概略、約700名程度という話だけは聞いております。

それと、今、消防長のほうが申しあげましたのは、平時の関係が主としてでありまして、これが有事になれば、とてもじゃないけどそういったことでは間に合わないといったことで、恐らく国、県のほうにまた要請をいたしまして、大型船等の避難対策船を要請する必要があるかというふうに思います。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） そうですね、対馬市には、大変、今、子供から高齢者、それから病院のいろいろと入院患者、福祉施設等の入所者、様々なやはり市民がいます。今後は、やはり韓国人の観光客であったり外国人労働者、それぞれ増加傾向にあるため、やはりこの避難のマニュアルが本当に必要になってくると思います。やはり、その辺の緊急性を見た今後の避難訓練も想定して、今度、令和9年、令和10年にやられるということを今初めてお聞きしましたんで、大変いいことだなと思っております。まずは、計画をしっかりと、緊密にということをおっしゃってまですけれども、県、国と緊密に、やはりそういったのを我々も共有して、こういったマニュアルがあるんだよということを我々は分かりませんので、示していただければ助かります。

最後に、やはりこの危機管理体制、市長は有事の際の避難計画をしっかりと対馬市民の危機管理体制について、関係機関ともう一度、再度協議のほうをお願いいたします。

次に、浅海中学校の件に行きたいと思います。

浅海中学校は、市長が最後、3回目に、我々も、市議会議員も五、六名、その際説明会のときに出席をしておりました。十分な理解が得られなかったと、市長は今年度中の売却は厳しいと、先方にも地区住民にも伝えているということで。

今後の防衛予算、令和7年度についての防衛予算は、断念をすることによって来年度はどのような形になるのか、協議はまだされてないでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このたびの旧浅海中学校の購入予算が流れたとした場合は、恐らく令和8年度予算での購入は難しくなるのではないかとということでありました。

そこで、そういうことであれば、恐らく最速であっても令和9年度の予算になるのではないかと、そういったことを九州防衛施設局のほうの部長のほうからの話を聞いているところでございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 今、令和7年度に予算がありましたが、恐らく、今、予算査定の関係でやはりもう令和8年度は無理だろうと、そのように我々も認識をいたしました。

その中で、市長にお聞きいたしますが、今この売却問題、住民から理解が今回は得られなかったということで、継続して説明会をまた行っていくのか、それとももう断念をするのか、その辺を答弁をお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことにつきましては、九州防衛施設局、そしてこの陸上自衛隊対馬警備隊の皆様とも協議もさせていただいているところでもございますし、まず初めに肝心の訓練ができなくなるということが、一番、当面危機的な状況になりますので、まずこれまでどおり旧浅海中学校を利用した訓練については、地域の皆様からの了解も得たということで、今後実施をしていくということでございます。

その上で、今後、対馬のこの陸上自衛隊そして九州防衛局の皆様と対馬市とそして地域と3者でコミュニケーションを取りながら、また売却に向けて交渉は継続していくということで確認をしております。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 市長は、今答弁のとおり、売却に向けてまだ諦めてないということと理解をいたしました。

この売却に向けて、最終、市長が住民側と交渉の際、もしこれが成立をする、その際、その後、最終決定権はやはりこの議会に承認を得て、初めてこれが売却成立ということで理解をしております。

私が、11月9日の住民説明会に参加をさせていただきました。そして、感じたのは、これまで何回かに分けて住民説明会をされたと思います。その結果とかいろいろ私も調べた中で、やはりこれはいろいろな説明会に、前の以前の問題もありましたが、もう少し対馬市っていうか、説明資料の準備不足、これが一つあったのじゃないかなと私なりに感じたんですが。

まずは、やはり令和5年9月、これ忘れもしません。9月に、市長は文献調査、高レベル放射性廃棄物の受入れに反対の理由を述べられましたよね。令和5年9月。その5つの理由というのは、住民側からしてみれば、逆の立場からしたら、売却に反対した理由に似てるような気がするんです、これが。

まず、1つ目、市長が反対の理由を述べられた、市民の合意形成に至らなかった。市民の合意形成、市民の分断までは起こってませんけど。4番目の言われたこと、市長が、市民に理解を求めるまでの計画条件がそろってなかった。事故等が発生した際の対応、避難計画。そして、5番目に言われたこと、市長が、将来的な想定外の要因による安全性が排除できなかった。これが、小船越地区の住民の一番の、想定外のことに對する計画が対馬市側、防衛省側、自衛隊側、それぞれの、もう少し説明の際のそれが不足ではなかったかなと私は感じたんですが。

そして、住民から、国のことだから、最終的には市長の決断であるんじゃないですかという発言がされてました。そうですね、市長、言われましたよね。ですから、今ボールは市長にあるんです。ボールは市長に。

市長にお聞きしますが、今後納得いく説明と先ほど言われましたが、具体的にどのような説明をされていくのか。その計画を考えられているのか、答弁をお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 令和5年のこの特定放射性廃棄物の関係とは全く私は関連はないものというふうに認識しておりますが、この旧浅海中学校の跡地の売却問題に関しましては、やはり地域住民の皆様は、一番心配をされているのが、訓練時の、特にヘリコプター等の騒音等を一番心配をされてあったということでございますし、2つ目といたしまして、今現在、小船越地区の避難施設としては地区の公民館を利用されてありますけども、そのほかにやはり旧浅海中学校の体育館等にも避難をせざるを得ないときもあるといったようなことで、そこがもし自衛隊のほうの施設になってしまったら立入禁止となりますので、そうなった場合の避難施設はどうするのかといったような危惧を、心配をされているということで、まずそのようなことからちょっといろいろと解決をしていかなければならないという気持ちでおります。その上で、再度、この地域の方たちと説明を重ねながら交渉を重ねてまいりたいと思っております。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） それで、今言われた市長の地区の方の要望とかいろいろ避難所の件、それをやはり向こうは心配してたんです。それを答えられなかったでしょう、前回の10月9日に。だから、そういったしっかりした計画条件がそろってなかったんです、対馬市が。その件で、住民側ももっとだから避難施設をどう、心配事が払拭できなかつたんです。ですから、これから、先、今、旧浅海中学校は標高は28メートルです。指定緊急避難所にされてるんです。319名収容ができる、今あそこの中学校は。

住民の方の要望等は、市長は聞かれていますか。どういったことが、個人的にも、我々に言えなくてもいいですけども、浅海地区の住民の要望とかは何か聞かれていますか、聞かれてないですか、まだ。いいです。

この要望等、今、市長は住民説明会のときに、売却した際の財源、仮に、売却したときの財源はどうする、対馬市に売却のお金が入ります。その優先順位は、小船越地区の要望に応えるとも言われてましたよね、きちっと。それは当然です。そういうのはやはり、そういった要望をしっかり今から事前に、次の説明会前にしっかり話をさせていただいて、前向きに前向きに進めていければ、やはりこれはあとはもう市長の、決断するのはもう市長ですので、我々はそれをサポートするということですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

やはり、対馬市は、今、国の補助金や交付金なくしては財政的に大変厳しい状況であります。今後は、やはり陸上自衛隊、福岡防衛施設局、対馬市としっかり協議して、次回の説明会に、地元住民の要望、事故等が発生したときの対応や避難計画をやはりしっかり説明をしていただき、

最後はしっかり市長が決断をし、住民に対して熱意を持って理解を求め、売却に向けて進めていってほしいと思います。よろしいでしょうか、市長。

次に、廃校舎の解体についてでございます。

資料を、写真を持ってきておりますので、よろしいですか。これ、廃校舎、今回、上県町の廃校舎について中心にちょっと質問したいと思います。今、これ、ちょっと写真のほうはあれなんですけど、伊奈です。伊奈のこれは旧小学校です。今もう廃校になってます伊奈です。何か分かりますか、これ。旧小学校です、跡地。

次、これが、旧伊奈小学校の今の校舎の今の写真の裏面です。これ、紅葉がきれいとかそんなのじゃないです。これ、校舎に紅葉のカズラが巻いてるんです。このような状態です。今、旧伊奈小学校、いいですか。

次に、これが、旧伊奈中学校です。旧小学校と旧中学校のこれ、いいですか。次、この裏。これ、旧伊奈中学校の先ほど2階の校舎、タブレット皆さん載ってますよね。窓ガラスがこれ割れてますよね。誰かがこのガラス、割られてるんです。分かりません。このような状態です、今、旧伊奈小中学校の校舎が。

次、これ、佐護、佐護の旧へき地保育所の今の状態です。分かりますか。佐護。草が生えてよく分かりませんよね、何がどこにあるやら。次、これが佐護、その旧保育所の裏にある佐護地区の避難所として書いてますけど、これ体育館です。旧佐護小中学校の体育館、よろしいですか。

今、上県には、このように廃校舎やグラウンドが多くあります。今、この廃校舎やグラウンドの除草作業とか維持管理体制、まずこれどのようになっているのか、その地区に、いやもう放ったらかしていいですよということになってんのか、その辺を市長、どのような管理体制なんですか、今この廃校舎。これは上県だけですけど、全島にあると思いますけど。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 特に、今話のありました伊奈の旧小中学校につきましては、教育委員会の行政財産から上対馬振興部の普通財産のほうになっておりまして、現在、旧伊奈小中学校につきましてはその用途検討といったことで、まだ除却とかそういうところまでは至ってない状況であります。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 今、この旧伊奈小学校、築100年です。人生100年ですけども、築100年です。この100年そのままずっとこの状態、そして旧伊奈小中学校の廃校は平成14年3月、約24年前に閉校してる。そして、今、旧小中学校の、先ほど見せましたけど、窓ガラスは割られ、これどういうふうな管理してるんですか、対馬市としては。現状見て、この旧伊奈小中学校の卒業生も市の職員にもいらっしゃると思います。一般の人、今この廃校舎を現

状を見てどう思われていると思いますか、がっかりしてます。まだ対馬市はこの状態で何も手をつけてくれないんだと、職員も見て見ぬふり。いいですか、職員も見て見ぬふり、割られてますね、ガラスが。これ、自分の家が被害に遭ったら警察に届けますよね。市の財産です。これ、ガラスが割られていいんですか。全部ほかのガラスも、警察にも多分届けられてないと思います。被害届とか出されてないと思います。こういう指導をしていいんですか、市長。

そして、今この旧伊奈小中学校の校舎の横には新しい家があるんです。民家が。以前、台風時に小鹿集会所の屋根が飛び、民家へ被害を与え損害賠償問題になりましたよね。そういった住民に迷惑をかける前に、これ未然防止措置を取るべきなんです。解体をするべきなんです。振興計画とか計画があります、100年です、これ建築。どう思われます、この建物を見て。

予算査定はどちらがされるんですか、俵副市长ですか、一宮副市长ですか、どちらですか、予算査定。先ほど、市長のほうから2人で最後決断をすると言われましたけれども、決断してください、ここで、どうですか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、私も伊奈方面に行くときに、この鉄筋コンクリート造りのほうは旧中学校のほうですか。ここの校舎は道路から見えますので、あるなということで。まだ、ただ見た限りではRC造りですからしっかりしてるなと思ってましたけども。

今回、その横の木造造りの旧小学校の写真を私も初めて見たときに、確かにこの、特に旧小学校のほうは、ここは早めに何とか、厳しい予算の中ではありますけども、対応しなくちゃこれはいけんねという話を今している状況であります。何せ、これでいいと思っているわけじゃなくて、このRC造の旧中学校のほうはもう少し先に延ばしてでも、この木造旧小学校のほうだけは何とかして予算をつくってでも対応をしていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 今、市長のほうで答弁をされましたけども、まだほかにも、私は上県町だけしか今チェックをしてませんが、全島にこういった廃校舎、廃園、教員住宅、市営住宅など負の遺産が対馬市にとってたくさん残ってると思います。この財源を本当にどうすべきか、大変厳しいと思います。しかし、こういった一番もう見苦しい、見苦しいとは失礼ですけども、こういったのは早急に市長やってください、お願いします。

そして、最後、市長、2025年流行語大賞、御存じですか。2025年の流行語大賞、高市総理の、よろしいですか。日本初の女性総理「働いて働いて働いて働いて働いて働いてまいります」です。市長、副市长、そして各担当部長、ほか対馬市全職員の皆様、そして我々全市議会議員が全世代総力結集して、この対馬市の山積する課題解決に向けて知恵を出し、考え、働かなければ、

対馬市はどうしますか。市長の任期はあと残り2年4か月、対馬市は第3次対馬市総合計画を今作成中でありますよね。夢物語、絵に描いた餅のような計画は必要ありません。将来の対馬島民の人口減少を想定した、今を生きる子供から大人まで一人でも多くの対馬島民の生活が豊かになる対馬島民ファーストの政策を考えていただきたいをお願いします。

私の一般質問は、これにて終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

---

○議長（春田 新一君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

来週月曜日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後2時46分散会

---